

10月園だより



えんちょうのふでばこ

令和5. 9. 26 No.1
かきの木幼稚園
園長 川井 直子

— 猛暑いまだに —

曼珠沙華^{まじゅさげ}一むら燃えて秋陽つよし



そこ過ぎてゐるしづかなる径

木下利玄

・築山や柿畑の曼珠沙華に目をやると、いつもは「秋分の日」より一週間位前に真っ赤な花が沢山咲きそろうのだが、九月二十日現在 数本の花と長く茎を伸ばし蕾をつけた状態のものばかりである。猛暑で植物のセンサーが乱れてしまったのだろうか。

・夏バテのうさぎの黒ちゃんは、運動会まで柵の木のある中廊下で避暑生活中。日に日に人参や蕪を食べ、愛くるしく元気にケージの中を飛び回っている。「黒ちゃんおはよう」「いい子ですね」とつい声をかけたくなる。子ども達も可愛がっている。身近に対話できる小動物がいる生活も心がなごむ。

・そして、また広く周囲を見渡すとかつては群れていてあたり前の雀が驚くことに「絶滅危惧種」になってしまっそうだと言う。雀の住まいが僅かしかなくなってしまうのである。首都圏は開発を前提（としたであろう）、農地の宅地並課税、安い外国製木材輸入による林業の衰退、自然や野生動物は人間の破壊力には無力だ。今、園の周囲で見られる小鳥の群れの勢いは、一、ムクドリ ニ、キジバト 三、雀の順である。毎年プランターの稲が実る頃、雀達の格好の餅場になっていたものだが・・・。
・かきの木の子ども達は、この暑さの中の生活でも身体を通して「自然の変化や営み」を温かな心持ちで向き合い、科学的な見方もできる子どもに育って行くと思っている、「自然」の持つ教育力によって。